

ノンジャンル

地域の支え手になることで 高齢者の生きがいを

新聞の伝えるところによると、昨年の我が国は出生数が死亡数を26万人下回ったという。こうした人口の自然減は8年連続とも伝えていいる。社会保障制度に支えられる側がどんどん増える一方、支える側は減るばかりだ。年金・医療・介護政策も大きく舵を切らざるを得ないだろう。

前期高齢者の一人として、筆者も高齢者の積極的な社会参加が重要だと思う。だが長年会社人間として生きてきて、いきなり社会参加と言われても戸惑うばかりなのが現実だ。そうしたとき本書に出合い、「成る程、こういう生き方もあったのか」と思った次第である。

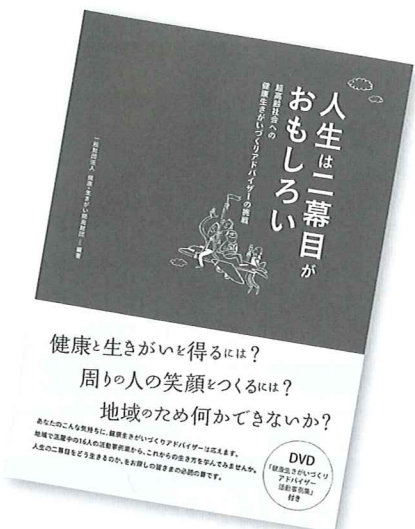
本書は「健康生きがいつくりアドバイザー」（以下、アドバイザーと略）の実践の記録である。アドバイザーの資格を得て、定年後の長い年月を「人生の二幕目」として豊かに生きることが、幸せな長寿社会を実現するカギ、と訴える本書には「二幕目」へのヒントが縦横に散りばめられている。

愛媛県西条市で通所介護事業所「デイホームきて民家」を運営している沖中さんは、58歳のときアドバイザー資格を取得、

定年後のボランティア活動をきっかけに介護事業の会社から誘いを受け、「きて民家」を設立した。沖中さんは、デイサービスのノウハウを生かしてもっと地域全体を活性化したい、と語っている。

森田茂生 評
（編集者）

東京都町田市の「NPO法人まちだ」の会長でもある向井さんは、里山保全のため下草刈り、竹の駆除などによる雑木林の再生を行い、駆除した竹で竹炭づくりも。また市からの委託やボランティアで、公園の草刈りや樹木の剪定などを行っている。向井さんにとって大切なのは「自分の持ち味を生かして、セカンドライフを充実させること」だ。巻末の座談会で、滋賀県健康生きがいつくり協議会の石塚さんは、地域包括ケアシステムでアドバイザーが果たす役割は大きいとし、「高齢者が地域の支え手になることで生きがいを感じ、その活動が収入にもつながる」というビジネスモデルを描いている。高齢者にとって地域は宝の山なのである。



人生は二幕目がおもしろい 超高齢社会への健康生きがいつくりアドバイザーの挑戦

一般財団法人健康・生きがい開発財団 編著・発行
本体 1,200円＋税 2014年10月刊

編著者プロフィール

健康・生きがい開発財団は中高年齢者の健康生きがいつくりを支援する人材を養成するための研修・資格認定事業を実施。在職中とリタイア後の健康生きがいつくりや仲間づくりを企業や地域で支援するコンサルタントを養成している。

特集 高齢期の働き方とシルバー人材センターの役割

高齢者の社会貢献が 労働力確保の環境整備を担う

報告 平成27年度厚労省予算案・税制改正大綱

連載 新・言語学序説 浅野 史郎

平成27年7月からの年金請求書

おしえて! 年金Q&A 岡崎 和光

サービス・業務改善コンテスト

知っておきたい厚生年金・共済年金一元化 長沼 明

年金記録訂正分科会が初会合

年金+aのマネープラン 望月 厚子

雇用
労働
平成27年度予算案と税制改正

国民年金の現場から 岐阜県大垣市 京都府木津川市

社労士会訪問 福岡県社会保険労務士会



インタビュー

企業
年金

企業年金再考 佐藤 英明

城西大学経営学部教授

企業年金レポート 企業年金制度の見直しの方向・その5

塚本 成美さん

金融
機関

金融機関の年金ライフ支援業務 水戸信用金庫

